

課外活動の再開にあたっての注意

2020年 7月31日

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する大学のさまざまな対応に、これまで我慢強くご協力頂きありがとうございます。8月6日以降、駒場キャンパスにおける「課外活動施設の利用制限の緩和」を行うことになりました。今回、課外活動の再開にあたって皆さんに是非理解してもらいたいことがあり、下記の文章を記しました。

COVID-19は現在第2の感染拡大の波が到来している段階です。また、複数の他大学で課外活動の再開後に感染クラスターが発生し、ほどなく再び厳しい活動制限に戻った事例が報告されています。このような中で、本学において課外活動を再開するのは、相当高いリスクがあります。おそらく、駒場でも課外活動によるクラスター発生の確率は高いであろうと考えており、何事もなく継続的に課外活動ができたとしたら、それは奇跡に近いことだろうと思います。

ですから、課外活動を始める皆さんには、まず、それだけ困難な活動を始めるのだという自覚を持ってほしいと思います。また、課外活動での感染クラスター形成により、自分だけでなく友人や他の学生、ご家族にも多大な影響を与えることを想像し、自制を持って日々の活動を行って頂きたいと願っています。(本学で大規模な感染クラスター形成が発生すると、現在準備を進めているAセメスターでの対面授業の再開にも影響が生じます。1年生になんとかして対面授業の経験をしてもらいたいと、教職員で必死に準備していますが、どうかこの作業を無駄にしないようにして下さい。)

どうやったら感染クラスター形成を阻止できるのでしょうか。これまでの感染拡大に関するケーススタディーから、どのような状況で感染クラスターが発生しやすいかが、次第に明らかになってきました。新型コロナウイルスは、基本的に唾液や鼻水などの分泌液の飛沫を介して、人から人へ伝播していきます。ウイルス自身の構造は単純で、アルコール消毒などの消毒や石けんなどの界面活性剤で比較的容易に不活性化しますが、ツルツルした物体の表面では何もしなければ数日間活性を保持した状態を維持できるようです。そのようなウイルスの性格を反映して、感染クラスター形成しやすい状況は、「3密(密閉・密集・密接)」として表現される以下のパターンとなっています。

1. 不特定多数の人間が、マスクなしにつばを飛ばしながらしゃべる
2. 人同士が密着したり、身体的に接触したりする
3. 不特定多数が、手に触れる物体を消毒をせずに共用する
4. 人との接触回数の多い活動量の高い人間(困ったことに無症状の感染者である可能性があり)が、多数の人と長時間にわたり交流する
5. 換気の悪い、消毒などもなされない環境下で人が密集する
6. 上記の環境で感染した人間が、帰宅後に家庭などで他の年代の人々に無自覚に感染を拡大する

こうやって眺めてみると、課外活動を普通に行えば感染クラスターが生じるのは不可避だとわかれると思います。ですから、制限が解除されたからといって、今まで通りの活動が許されたとは決して思わないで下さい。上記の状況を回避しながら、長期間感染クラスター発生を抑制し、どれだけの期間課外活動を継続できるか、これは課外活動を開始する東大生に与えられたテスト（試練）です。課外活動ですので、大学側も感染防止にある程度協力はしますが、基本的に課外活動を行う皆さん自身でこの問題を解決して下さい。

といっても、どうしてよいかなかなか解決策が見いだせないこともあるでしょう。私の分野では、実験室で微生物や動物細胞を無菌状態の中で扱います。この際、器具や実験環境の消毒や滅菌、手指の洗浄や消毒作業、作業中はしゃべらないなど、一連の無菌的所作を習得します。最初は苦勞しますが、慣れてしまえば大抵の人は普通に作業できます。課外活動では、そこまでやる必要はないと思いますが、見えないウイルスがそこにいるかもしれない、という無菌的意識を持って対応すれば、感染拡大を抑止できる可能性は十分あるのです。

また、感染は学外で起きる可能性もあります。課外活動後は疲れていて、しかも気が緩みますので、盛り場で会食したりすれば感染する可能性は高いでしょう。本学の場合、混雑しがちな電車を使って、渋谷をはじめとした人混みを通らなければ登校できない人が多いはずです。通学時には混雑時間帯は避け、車内ではなるべく会話をしないようにし、つり革や手すりを触ったあとにはなるべく早めに手を洗うなどの対応をしてみてください。

加えて、万一感染した場合も事故に遭ったようなものであり、くれぐれもその当事者を責めないでください。やるべきことは、そこから感染を拡大しないように、隠蔽などせず迅速に感染拡大を阻止することです。そのときに備え、行動記録を取っておくとか、厚労省のアプリなどを有効に機能させるために予め各自でスマートフォンにインストールしておく、また、罹患等した場合は、速やかに下記フォームにより連絡するなど適切な対応をお願いします。

[（新型コロナウイルス感染症 感染報告フォーム）](#)

課外活動をコロナ禍の中で安定して実施できている大学など、世界のどこを探してもないと思います。そのような世界の先端を開拓する覚悟で、課外活動を行って頂きたいと思います。私たちは、新型コロナウイルスが打撃を加えている「人と人との交流・リアルなネットワークの形成」を、なんとしても守っていかねければなりません。是非東大生の皆さんが率先して、その新しいモデルを作ってほしいと願っています。なお、東京都・国内の感染拡大状況によっては、課外活動の制限を再び出さなければならない状況も十分あることを理解してください。最後に、より長い期間、制限を強化せずに多くの学生が課外活動で青春を謳歌できることを願いつつ、筆を置くこととします。

東京大学・教養学部長、大学院総合文化研究科長 太田 邦史